



朝日子だより

吉田高校 進路指導部

H21.9.14 発行

社会人編 Vol.4

吉高生のみなさんへ

社会人の視点から、仕事内容や社会人として必要とされる資質について書きました。進路を考える際の参考になれば幸いです。

小林 寛(平成8年度 理数科卒業)

癌研有明病院 整形外科 勤務

東京大学 医学部医学科 卒業

仕事内容は・・・

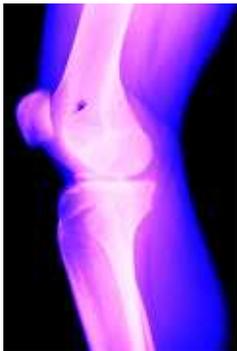


整

形外科は頸部から下の筋、骨、関節、神経、脊髄に生じるさまざまな疾患を扱っています。

一般的には、骨折の手術、膝や股関節の関節痛に対する人工関節の手術、関節リウマチの治療、脊髄の障害に対する手術、スポーツ医学などがあります。これらは機能改善を目指す治療であり、整形外科は一般的には元気な患者さんを対象に行い、明るい雰囲気のある科です。しかし、骨、

筋肉、神経などに稀に腫瘍が生じることもあり、代表的疾患に骨肉腫があります。これらもやはり発生する部位から整形外科が扱うこととなります。骨肉腫は、1970年代までは難治性の疾患で、切断を余儀なくされ、90%の致死率と恐ろしい病気でしたが、最近は、化学療法が発達し、70~80%の生存が得られるようになり、また患肢温存を目指した手術ができるようになってきています。



私

は、東大をでて、東大病院整形外科の医局(医局というのは各大学病院にあり、出身大学だけではなく、他の大学の医局に自由に属せます。医局についての説明を細かくすると難しいのですが、形式的には医局ごとに派遣する病院をもった派遣会社というようなものです。東

大整形外科の医局は日本で一番歴史があり、専門性の異なる多くの病院で働くことができます。)に入り、早7年目になりますが、1年~1年半おきに病院を移り、さまざまな疾患を勉強してきました。その中で、腫瘍の患者さんにかかわることが多く、腫瘍を専門にすることになりました。大学病院の医局に属した場合、専門が決まってくると、研修医の指導のために 中べん という立場で大学病院に戻ります。私も、



現在の癌研病院で勤務する前に 2 年間、東大病院で専門外来および研修医の指導を行いました。そんな中、えらそうに人に指導していると、自分の知識、技術のなさに気付き、より専門性を高めるため、癌研病院での勤務を希望し、現在に至っています。癌研病院は、東京医科歯科大学の整形外科の医局に属し、日本で年間約 100 例しかいない骨肉腫の患者さんのうち 10~15 人の患者さんを扱うほど症例数の多い病院です。先述したように一般的には自分の属する医局の病院をまわるのですが、それほど堅苦しくもなく、コネさえあれば、勉強のために他の医局の病院で勉強させてもらうことも可能です。



今

後は、癌研病院で 1 年勤務した後に、大学院に進学する予定です。東大整形外科は研究（特に骨の研究）も盛んです。研究は、大学病院のスタッフとして研究を主に行っている先生と大学院の人々で行っています。臨床を一通り勉強して 6~10 年目の間に大学院に進学することが一般的で、年間 4~6 人程度が大学院に進学します。その間は、学生となり学費を払いながら、週に 1 回、一般病院の外来を行い生活費を稼ぐことになります。

将

来のことについては不透明な要素が多く、はっきりとしたことはわかりませんが、東大の医局では入局後 10 年は 1~1 年半ごとに様々な病院をまわり、その後、専門性を生かして、ある程度固定した病院で働くこととなります。自分の意思もありますが、医局という組織の中で周りの人とのバランスをとりながら、自分の存在場所が決まってきます。

職場の様子

癌

研有明病院は、名前の通り有明にあります。有明？と思う方がほとんどだと思いますが、フジテレビのあるお台場の近くです。現在住んでいるところは有明から電車で 1 時間程度のところであり、毎朝 7 時 30 分から患者さんの回診があるため、朝早く、また手術が長く夜の 11 時ころまで仕事することが多いこと、少し早く終わると医師、看護師と飲みに行くことから慢性的な寝不足状態です。高校時代は寝不足だといふ授業中に居眠りをしていましたが、そんな状態でも、腫瘍の患者さんを治療する意思をもった他のスタッフと意を同じにして働けること、日々知識と技術がつき、また治療がうまくいった時の達成感もあり、充実した毎日を送っています。



就職前と就職後の印象の差は・・・

現在、外科離れなどと言われ、就職前には、どれだけ自分の社会人としての質をあげられるかなど考えてしまい、夜遅くまで仕事をして寝られない生活など嫌だと考えてしまいがちです。もちろん息抜きに遊ぶことも大事ですが、実際に仕事をしてみると、大変な仕事をなしとげた後の達成感が生活を満たしてくれているように思います。



学生と社会人の違い

社会人には自分の身に付けた知識、技術が患者さんの状態を左右するという点で、知識量はもちろんのこと、行動、発言に責任があるのではないかと思います。

いま役に立っていると感じる高校時代の経験

高校時代は、はるか昔のこととなり、忘れてしまっていますが、大学受験の勉強の過程でわからないことを自分で調べ、考えて、効率よく解決する自分なりの方法を身につけられたのではないかと思います。現在も周りの人をみると、勉強の仕方は、おもしろいほど人それぞれであり、自分にあった勉強の仕方、問題解決の仕方を身につけるのがいいのではないかと思います。



高校時代の経験に限らないことですが、人とのつながりがとても大切だと感じています。3年間高校時代を過ごした仲間を大切にしてください。患者さんは様々な業種の人がいるため、そのような人とコミュニケーションをとるための知識が必要になります。医者は病院にこもりがちになり、世間のことに疎くってしまう傾向にあります。もちろん本やテレビでいろいろな知識を身につけることもありますが、高校時代に3年間ともに過ごした仲間が様々な業種に就職して、第一線で仕事をしており、生の話を聞くことは、いろいろな刺激があるものです。

